

第63号

平成11年2月10日発行

群馬県山岳連盟

〒371-8570 前橋市大手町1-1-1

群馬県庁観光物産課内

TEL 027-223-1111 内線3151

編集発行人

群馬岳連編集部 羽野順一

印刷所 朝日印刷工業(株)



鏑木毅選手、大会新で二連覇

第九回山田昇記念杯登山競争大会



日本武尊像の前で



山田杯スタート



山田杯 左から2位 佐藤、1位 鏑木、3位 百村各選手



鏑木 毅選手ゴール

平成十年十月四日(日)、第九回山田昇記念杯登山競争大会が開催された。山田杯は出場者百十七名(申込み数百三十名、欠場者十三名)、三枝賞には七十三名(申込み数七十五名、欠場者二名)、一般参加は百六十七名、役員百六十三名の総勢五百二十名の大会となった。予定どおりに七時から開会式、そして山田杯が八時三十分、三枝賞が八時四十分それぞれスタートした。昨年山田豊選手の六連覇を阻止した鏑木毅選手(群馬県庁)が、一時はリードを許したものの、大会新の二時間六分二十秒で一気にゴールを駆け抜けた。女子では広川とみ江(旧姓田村)選手が、五年連続でトップとなった。三枝賞では、昨年に続き新潟県十日町高校が上位を独占。優勝した桑原和幸選手は二連覇を達成。また、二時間十五分五十秒の二年連続のコースレコードで華を飾った。また二位の桑原大輔選手も大会新をマークした。キャンプ場では、恒例の豚汁、マスの塩焼き等が用意され、参加者も大いに満足していた。午後三時には閉会式が挙行され、今大会も無事に終了した。

(総務部 千明政彦)

第 9 回 山 田 杯 順 位 表

(◎大会新)

順位	氏 名	性 別	年 齢	所 属	時 間
1	鎚 木 毅	男	29	群馬県庁	◎2時間06分20秒
2	佐 藤 昭 則	男	29	十日町消防署	2時間13分51秒
3	百 村 亨	男	39	栃木県塩谷郡氏家町	2時間19分28秒
4	江 連 敏 夫	男	41	栃木県山岳連盟	2時間20分26秒
5	横 山 忠 男	男	28	群馬県桐生市	2時間22分38秒
6	山 田 豊	男	51	沼田山岳会	2時間26分48秒
7	山 田 勇 一	男	30	黒田精工アスリートクラブ	2時間29分39秒
8	粕 川 嘉久治	男	47	群馬県勢多郡新里村	2時間33分16秒
9	松 本 博 明	男	42	玉村クラブ	2時間34分20秒
10	林 幸 男	男	24	群馬県邑楽郡邑楽町	2時間35分26秒
11	田 崎 幸 治	男	41	栃木県山岳連盟	2時間35分41秒
12	デニス=オコネル	男	30	東京都青梅市	2時間43分00秒
13	大 山 洋 次	男	40	境町山の会	2時間43分14秒
14	下 嶋 浩	男	53	田園クラブ	2時間43分49秒
15	岩 田 賢 一	男	37	小田原走ろう会	2時間45分19秒
16	広 川 とみ江	女	36	粕江陸協	2時間46分49秒
17	村 本 裕 一	男	31	国体クライマーズ	2時間46分52秒
18	春 日 乙 英	男	43	(株)高橋工務店	2時間48分46秒
19	法領田 恵	女	38	高崎市立岩鼻小学校	2時間51分07秒
20	菊 池 英 智	男	27	太田山岳会	2時間56分17秒
21	阿 部 源	男	45	大間々山岳会	2時間57分27秒
22	阿 部 敏	男	31	東邦電子(株)日高	2時間57分47秒
23	阿 部 悦 子	女	45	大間々山岳会	2時間59分34秒
24	藤 原 定 子	女	37	慈恵医大第三病院	3時間02分01秒
25	横 山 寿 雄	男	51	県立高崎工業高校	3時間02分15秒
26	長谷川 喜久男	男	41	県立高崎工業高校	3時間03分40秒
27	若 本 雅 史	男	35	伊勢崎山岳会	3時間04分32秒
28	森 美代子	女	46	足利走友会	3時間04分55秒
29	福 田 宗一郎	男	31	国体クライマーズ	3時間04分56秒
30	館 山 誠	男	49	武蔵ウルトラマラソンクラブ	3時間05分39秒

第 9 回 三 枝 賞 順 位 表

(◎大会新)

順位	氏 名	性 別	年 齢	所 属	時 間
1	桑 原 和 幸	男	18	新潟県立十日町高校	◎2時間15分50秒
2	桑 原 大 輔	男	16	新潟県立十日町高校	◎2時間18分41秒
3	江 村 浩 一	男	18	新潟県立十日町高校	2時間31分35秒
4	中 山 岳 大	男	18	日本工業大学	2時間32分55秒
5	山 田 まりや	女	18	新潟県立十日町高校	2時間39分25秒
6	星 野 裕 樹	男	17	新潟県立十日町高校	2時間50分38秒
7	松 本 建	男	17	県立高崎工業高校	2時間54分45秒
8	根 津 洋 平	男	16	新潟県立十日町高校	2時間55分58秒
9	俵 山 真 一	男	17	新潟県立十日町高校	3時間08分42秒
10	加 藤 基 嗣	男	17	県立高崎高校	3時間19分12秒
11	星 野 武 尊	男	17	利根商業高校	3時間19分38秒
12	加 藤 真	男	16	県立沼田高校	3時間20分20秒
13	尾 身 薫	女	16	新潟県立十日町高校	3時間20分21秒
14	斉 藤 克 哉	男	16	県立伊勢崎東高校	3時間20分22秒
15	角 田 寛 之	男	17	県立沼田高校	3時間21分01秒
16	春 原 友 洋	男	17	県立沼田高校	3時間25分04秒
17	篠 原 卓	男	17	県立渋川高校	3時間25分58秒
18	田 村 智 子	女	17	県立渋川女子高校	3時間27分58秒
19	渡 辺 佑 吉	男	17	県立館林商工高校	3時間28分40秒
20	大 友 賢 溪	男	16	県立渋川高校	3時間31分44秒
21	石 坂 子 朗	女	17	県立渋川女子高校	3時間34分42秒
22	高 橋 哲 朗	男	18	県立尾瀬高校	3時間35分12秒
23	野 上 幸 寿	男	16	新潟県立十日町高校	3時間35分38秒
24	石 関 伴 和	男	15	県立高崎工業高校	3時間35分51秒
25	高 橋 純	男	17	県立中央高校	3時間41分49秒
26	都 丸 恵	男	16	県立中之条高校	3時間41分53秒
27	長 谷 一 宏	男	17	県立館林高校	3時間44分17秒
28	田 中 康 之	男	16	県立利根実業高校	3時間45分00秒
29	高 橋 勇 太	男	16	県立高崎工業高校	3時間55分31秒
30	中 村 伊千哉	男	17	県立渋川高校	3時間56分40秒



女子の部 左から2位 法領田、1位 広川、3位 阿部各選手



三枝杯 左から2位 桑原大、1位 桑原和、3位 江村各選手

Aコース 5時間（一般向き）

開会式場（バス）→中関→茶臼山→石尊山→閉会式場

Bコース 6時間（健脚向き）

開会式場（バス）→吉ヶ谷津→浅間山→御岳山→石尊山→閉会式場

今大会は安中市秋間地区・石尊山周辺ということで、標高も700m以下の低山で、知名度からみても参加者は多分少ないだろうと予想したが、相反して304人も例年になく多数の応募があった。安中市・市制四十周年記念のイベントの一つとなり、広報での案内もあって、安中市在住の参加者が多くみられたことも一因であろう。また午前7時からの受付時には、安中市の好意により四十周年記念のJR安中榛名駅オリジナルオレンジカードも参加者に配布された。参加人員はAコース108名、Bコース115名、役員69名の総勢292名の大会となった。各コース共にバス輸送が控えているので開会式終了後早々にバスへ移動し、リーダーからの注意事項もバスの中で行われるという忙しい出発となったが、天候にも恵まれ、半袖シャツで歩く参加者も多く見られ、秋の里山を十分に満喫していた。今回は恒例のなめこ汁に代わり安中名物のお切り込みを振るまい、午後3時には無事大会を終了した。

(総務部 千明政彦)

秋の里山を満喫
第二十二回
県民登山大会





高田政美君を偲んで

群馬岳連副会長
群馬登高会会員

田 中 成 幸

友達の案内で朝日連峰から下山した宿で、「高田さんが今朝、亡くなった」と連絡を受けた。

出掛ける際に見舞ったのが最後になるかもと、思っていたのが本当になってしまった。長い闘病であった。悔しさよりも空しい思いで永眠した顔を見た。

「鬼のパンツはいいパンツ、虎の毛皮で出来ている。履こう、履こう、鬼のパンツ。」酒に酔うとこれを歌い出すのが彼の十八番であり、第二十回岐阜国体出場の際に覚えてきた、高田いわくイタリヤ・カンツォーネである。

彼とは家が近かったので、子供の頃からよく遊んだ。高崎の観音山に化石拾いなどで駆け回った。

初めて彼を山に連れていったのは、高校二年の頃剣道部にい

たのを無理に、劔岳から槍ヶ岳の縦走に誘った時だった。その年の夏山には悪天候が続き、雨ばかりの一週間、黒部五郎カールの内

でのリングワンデリングの経験や、石油コンロも持たずに、雨の中、毎日が枯れ木を燃やしての飯炊きなどと苦労の連続の山行だった。

ただ一度、晴れたのは槍の穂先に立った一瞬の間だけだったが、遠くの劔岳を見て、感動して立ちつくしていたのが、忘れられない。山にのめり込むのには充分であったのであろう、彼は高校生で登高会の会員となった。

妙義山での岩登り合宿、谷川岳南面での沢登り、やがて一ノ倉沢、幽ノ沢へと通い続け二十代前半で登り尽くし、大きなルートへと変わってゆく。

昭和三十年代後半の、日本の登山指向は、バリエーション・クラ

イミングの時代であり、彼自身、地元谷川岳から穂高、劔の洗脳を受けたのは当然である。

昭和三十五年、私が群馬登高会のリーダーとして、最後の冬合宿を、群馬岳連としては初めての槍の北鎌尾根に決め、悪いビバークの末に吹雪の穂先に立った。そのビバーク中に、初めての縦走のこの感慨深く語った彼だった。

その後も、私の友達の関章司より、群馬でもヒマラヤ登山が出来るのではないかと聞かされると、同じ志を持つ境町山の会の本暮勝義、伊勢崎山岳会の矢内敏雄、群馬ミヤマ山岳会八木原昭明などと

共に海外登山研究会を発足させ、高崎で会議をもつようになり、群馬での海外登山の基礎を作った。今日の群馬ヒマラヤ登山の初め

であり、「群馬岳連五十周年誌」の中でも八木原がそのことを書いている。

県内、山岳会の中では四十五年の冬、ミヤマ山岳会の次に、群馬登高会として十名の会員と共に、韓国の雪岳山、又、死の谷へのアイス・クライミングを実践している。

生まれつき器用な彼はスキーも熱心で、日山協の指導員の資格と、スキー連盟のスキー指導員の資格の両方取得している。

結婚後は、海外登山よりも国体登山の指導に熱心になった。五十五年、栃木国体より登山も天皇、皇后杯の正式競技となると、競技コーチとして手腕を見せ、彼の得点計算力と指導力により、上位入賞に入る様になり、五十八年の「あかぎ国体」ではその花を咲かせ、全国の監督陣に、群馬に「高田」ありと言われた様である。

その後、指導委員長として、登山はオールマイティな登りを進め

るべく指導していた。彼自身も、単独でマッターホルン登頂後もフランス登山学校などの見学をしたりして、学んできたのである。指導制度が日山協から日体協へと変わる狭間も悩んでいた様だ。その頃より頭の白さも増えてきた。

岳連には、海外登山や救助隊が表の顔として目立っているようだが、海外登山や遭難救助隊ばかりではなく、広く岳連を見て考えていたのも、高田自身が真摯に山や岳連を見ていた現れであろう。

葬儀や追悼集の中の写真を見るのは、いつも辛いものである。私と共に登った高田が、先に逝った友達の所へ、私より先に逝ってしまうなんて、思いもつかぬ事であった。耳元で「鬼のパンツ」を唄う彼の声がきこえる。

群馬少女、踏査7位入賞

神奈川「ゆめ国体」山岳競技会

国体部長 角 田 二三男

神奈川「ゆめ国体」が終わり、一カ月が経った。まだ国体委員会としての総括ができてない状況であるが、報告と若干の感想を述べたい。

ミニ国体（関東ブロック大会、栃木県の高志山、今市青少年スポーツセンター）で少年女子が総合2位に入り、本国体への出場権を連続で獲得、成年男子（予選なしのためストレート）とともに出場した。

○成年男子

監督 山田 豊（沼田山岳会）
選手 大山洋二（境町山の会）
星野久夫（境町山の会）
鏑木 毅（群馬県庁）

種目成績

縦走 28位、登攀 15位、

踏査 17位

種別総合順位 18位

昨年まで選手だった山田がミニ国体で成年女子の、本国体では成年男子の監督を務めた。山田昇杯1位の鏑木と総合力の星野を迎えてチームを結成できたのは夏になってからで、なにぶんスタートの遅れの影響は大きかった。

縦走は今年から出場2名の合計タイムで競うこととなった。鏑木は94名中11位に入り、初出場のうえ練習不足ながら健闘、彼と同タイムの者がもう一人いればチーム

として3位に入れる力を示した。

踏査では踏査点の満点が13県もあり、1ポイント失敗すると時間点が満点でも13位となり、神奈川も16位であった。群馬は満点とれば3位という位置につけ、可能性は十分にあるので失敗しないことに心掛けたい。

登攀では埼玉が予選、決勝ともに二人が完登で1位、続いて2位神奈川、3位東京、5位千葉、と入賞の半分が関東勢で、そのレベルの高さが示された。同時にクライングのエキスパートでないと太刀打ちできないことを痛感した。

来年は熊本なので遠くて大変ではあるが、メンバーなど態勢を早く作り、少なくとも種目の入賞を狙いたい。

○少年女子

監督 松井洋一（渋谷高教）
選手 中澤良枝（吾妻高3）
角田雅恵（吾妻高2）
田村智子（渋谷高2）

種目成績

縦走 13位、踏査 7位

種別総合順位 9位

選手は3名ともミニ国体のメンバーで臨んだ。

踏査では1ポイント失敗したが、その中でも時間点で稼ぎ、入賞に食い込んだ。踏査点が満点ならば

毎年入賞できる。群馬の得意種目でもあり、これだけは何としてでも維持したい。



陣馬山頂のゴール

縦走に関しては、多くの県が陸上競技の選手を送り込んで来る状況のなか、山岳部員だけでよく健闘したと言える。ちなみに埼玉の少年男子は陸上部員でミニ国体では圧倒的な強さを見せたが、本国体では9位であった。

種別総合では惜しくも9位であった。前述のように縦走はなかなか厳しいが、入賞、皇后杯の得点まであと一歩である。また、選手3人のうち2人は2年生なので、来年に期待ができる。是非頑張ってもらいたい。

松井監督も2年目で、「なみはや国体」の経験を生かしながら、群

馬の少年選手団をよくリードして踏査の入賞に導いてくれた。

本県は来年度も踏査で稼ぐことになるであろうが、高知国体から少年にクライミングが導入され、踏査競技は廃止されるので、非常に厳しいものがある。

本県の高体連は、インターハイでは特別の強化をしなくてもそれなりの実績をあげているので、「登山」の力は持っていると言っただろう。これは言うまでも無く日常の部活動の成果の現れである。

群馬には競技に使えるボードが無い上に、高体連としてはクライミングへの対応が遅れているので、その対策が急がれる。一方、国体山岳競技がますます個人競技化、「登山」活動から離れていく現在あるいはこれから、どのように取り組んで行くかが年来の大きな課題となっている。

国体を振り返って見ると、いろいろな宿題が出されたわけであるが、これらは改めて言うまでもなく毎年のものである。とりわけ、成年・少年を問わず国体で成績を上げるには、ミニ国体の当番を間近に控えていることもあり早急なボードの設置、そして走力の強化を中心課題として挙げておいてよいだろう。

以上、取り敢えず今年度の総括および来年度への課題としたい。

味の店 ドライバーレストラン

一本松 さ か い

利根郡白沢村（国道120号線） TEL.0278-53-2053

店主 沼田山岳会 坂井 滋雄

くらしに緑を 家庭に花を 各種鉢物生産・販売・宅配

小 野 園 芸

利根郡白沢村平出1005

TEL 0278-53-2749 温室 TEL・FAX 0278-53-3987

園主 沼田山岳会 小野 正純

味のりんご

アンナプルナりんご園

沼田市上久屋町1231 TEL・FAX 0278-23-6802



園主 沼田山岳会 松永 幸雄

平成十年度 登山教室のまとめと展望

指導委員会副委員長 日向野克己

群馬岳連主催の今年度登山教室が終了した。今年も例年どおり約一〇〇名ほどの希望者があり、年中行事として定着した感がある。担当者の反省会を元に、今年度の内容をまとめてみた。

一、期日・内容・会場など

第一回（9／30）開校式および講演「わたしの山歩き」石井昭子氏（高崎北高教、会場・群馬県生涯学習センター）

第二回（10／7）座学「地図を片手に」（読図の基本）講師・悴田正也・登坂巖

第三回（10／18）登山実技（赤城・長七郎山）予定は地蔵岳までの縦走であったが、台風の影響があり、天候の回復を待つて午前中は座学としたためにルートを変更した。座学は赤城ビジネスセンターを使用させてもらった。

第四回（10／21）座学「秋山の天気について」講師・日向野克己、「テーピングの実際」講師・中原正喜、会場・群馬県生涯学習センター

第五回（11／1）登山実技（小野子山）及び閉講式・修了証書伝達、参加者感想。北毛青年の家をベースに、山頂より北面に下り、子持牧場を一周するコース。総合技術を確認しながらの登山で全体のまとめを行った。

登山実技は、例年通り全体の人員を五班に分割、一班十五名から十七名の編成で、指導員は各三名

を割り当てた。

指導内容は、読図を中心に登山技術全般に亘る基本的な必須事項を網羅したが、これは事前に指導者の打ち合わせを行い確認した。具体的な骨子は次の通りである。

①歩行技術（ストックを使用した場合を含む）②読図（地形図の見方・コンパスの使い方）③装備について ④救急法の基本 ⑤気象の知識 ⑥山での危険回避 ⑦山のマナー ⑧日常的なトレーニング

登山技術はこれに尽きるものではないが、座学として行った地形図、コンパスワーク、天気の見方や判断の仕方、テーピング、装備、救急法などは理論と実技のコンビネーションによって、その理解度も良かったように思われる。

二、運営、指導の体制について

今回も、前年同様十五名の指導員が運営と指導に当たった。募集から始まって、全五回の講習を円滑に行うのはなかなか容易ではないが、特に今回は、C級指導員受講者の参加もあり、サポーター的な役割を果たしてもらえたのは幸いであった。

一班三名の指導員というのは、規模としては適当と思うが、日によつては参加出来ない者もあり、その時のやりくりに苦慮するという事もあった。しかしながら、指導員のボランティア精神での協力

は例年のことながら、この行事を支える力となつてゐる。今後は、指導員資格の有効利用という見地から、必要指導者人員の倍程度の人数が確保出来ることが望ましいと思われる。

三、受講者の状況

ここ三年ほど、常に一〇〇名程の希望者があるが、今年も同様であった。しかし、受入れ体制や指導の徹底をはかる為に定員を八〇名とした（実参加七十七名）。このくらいが規模としては適当ではないかと言うのが、今回の実感である。参加者の年齢構成は四、五十代が圧倒的に多く、相変わらずの中高年パワーであるが、二十代の参加もあり、徐々にではあるが若い年齢層にも浸透し始めている感はある。

受講者の参加動機は、ほとんどが、基本技術の習得というところにある。これは毎年同じような傾向にある。一人で気ままに山に登っていたが、近年、遭難事故のことを聞くにつけても、基礎技術だけは身につけておきたい、というのが大方の考え方である。

しかし、毎年この講習に参加し、自分でも研究しながら熱心に山に登っているという層も出てきており、この人たちはもう少し上のランクでの指導を受けたいと願っている。この問題は、前年においても課題として提起されているが、これに対応すべき新しい試みは来年何らかの形で実施しなくてはならないところに来ていると思う。それが今年度の反省と展望の中に

も出されている。

四、今後の課題

前項にもすでに触れられているが、来年度は、新しい試みとして段階別の指導が導入されるべきと思つてゐる。その内容を箇条書きで示せば、次の通りである。

第一、初・中・上級という三段階とは言わないまでも、全くの初心者と経験者とは別の班編成にする。これによつて指導の能率化をはかる。

第二、登山実技の回数を増やす。現在実技は二回であるが、これを三回にすることによって、受講者の要望に応える。

第三、もし出来得るならば、一泊二日程度の山行を計画してみる。これは受講者の中にも希望が出てきていることであり、総合的な実技研修としてはかなり有効な方法であろう。

第四、もし、今年度のような内容で行うとしたら、一年だけの「読み切り」ではなく、二年乃至三年を見通した指導内容で行う。こうすれば、かなり系統的な指導が可能である。また、この方式に則れば、年間を通した指導期間というやり方もあり得ることになる。

第五、受講者との対話時間を充分にとつて、互いの山に対する思いをぶつけ合いながら進めて行く登山講習もあり得る。この要素は重要だろう。成立すれば、納得のゆく結果は得られる筈である。

以上、反省の中から浮かび上がったきた来年度への課題や展望をあげたが、たとえどのような方法、

どのような内容になろうとも、基本になるのは、あくまでも「安全で、楽しい登山のための基本技術」の習得であることを忘れることはできない。この登山教室の主旨は常にそこにあるからである。そこだけは外さないようにしたい。

また、新しい指導内容、方式は常に研究されなければならない。指導課程のマニュアルもその都度更新される必要がある。指導員研修が必要なのである。

今回、登山教室を契機にして、受講者の発案による一つの山の会が発足した。同じ講習を受けた者同志が集まって、今後も技術を磨きながら山に登ろうというのである。二十数名が集まった。既に第一回の例会を持つて山に登つたという。この講習がこのような形で発展して行くのは結構なことである。

いま、未組織の登山者が気ままに山に登り、技術もないために事故に至るといふケースも多い。そうした中で、登山教室を終わつた方々が、更に発展的・かつ自覚的な動きを始めたという意味は大きい。社会的な問題にもなろうとしている中高年者の遭難を防止するためにも、一石を投ずることと言つても過言ではない。

岳連の活動の一端として、一般の登山者と直にふれ合いながら進めて行く登山教室の存在意義は年々大きくなって行くような気がしている。今年度の活動を総括しながら、更に来年度へ向けて一層の努力をして行きたい。

群馬岳連救助隊新発足

遭難対策部長 松永幸雄

救助隊結団式

編成が遅れておりました群馬岳連救助隊の隊員が決定し、平成十年六月二十三日、体協会館に於いて結団式が行われました。当日は会長、副会長、理事長、副理事長に出席していただき、群馬岳連の救助隊として原点に帰り、遭難防止と救助技術の向上をはかることを誓いました。

平成十年度の救助隊の編成は以下のようになりました。

顧問 西山年秋(沼田)

隊長 松永幸雄(沼田)

副隊長 小暮文彦(境)、

町田幸男(太田)

書記会計 清水裕千(むすび)

隊員 星野広之(沼田)、梁瀬佐

市(沼田)、山田重之(沼田)、

清水福治(沼田)、堀越利通(登

高会)、田島崇之(登高会)、森

戸健太郎(登高会)、内山 栄

(前橋)、久保田昌幸(前橋)、木

村政巳(松井田)、小澤 勝(独

峰)、金子茂敏(太田)、阿久津

幸弘(太田)、松永英明(ミヤマ)、

福本誠史(ミヤマ)

第一回 救助訓練

七月五日、新編成された救助隊

の第一回救助訓練が、谷川岳の山開きに合わせて、マチガ沢のシンセン左俣とまむし岩で行われました。

登山中の事故の時、特別な道具を使う事無くどのような対処するか、効率の良い救助活動とはどのようにすれば良いのかを隊員に考え理解してもらうのが目的の訓練でした。

当日は群馬大学医学部麻酔蘇生科の斉藤先生、国立高崎病院の島田先生と二人のサポートとして八木原理事長、名塚副理事長に参加いただき、遭難現場から遭難者の生体情報を衛星通信を使って群馬大学に送る実験を行いました。後日情報が入りよく伝送された旨の報告がありましたが、今後救助活動において遭難者の早急な社会復帰に必要な適切な処置を専門家の指示の下で安心して行える可能性があるという貴重な体験をさせていただきました。

第二回 救助訓練

九月六日、第二回救助訓練を谷川岳一ノ倉沢で行いました。マチガ沢での訓練をふまえ、救助活動の時に隊員がリスク少なく遭難者を救助するには各自がどのように行動するのが良いのか、スピーディーな行動と安全確保を確実にすることを念頭に、中央稜の基部よりテールリッジ末端まで、遭難者を搬送する訓練を行いました。

平成十年 度

自然保護活動について

自然保護部長 小泉俊夫

尾瀬・ゴミ持ち帰り運動

六月六日、尾瀬山開きゴミ持ち帰り運動(クリーンキャンペーン)が実施され、環境庁、県環境課、群馬県山岳連盟、地元自治体、関係諸団体計十三団体が参加した。

従来は、ゴミ袋・タバコの吸い殻入れを入山者に配布して、持ち帰りを啓蒙してきたが、現在ではほとんどの入山者がゴミ袋を持参しているようである。

行動では鳩待峠と尾瀬ヶ原の二班に分かれ、岳連は鳩待峠から尾瀬ヶ原へのルートを担当、実施した。

谷川岳登山道の清掃活動

七月五日、谷川岳山開き安全登山祈願祭に参加。祈願祭終了後、旧道一の倉沢出合及び天神平の肩の小屋の二ルートの清掃登山を行った。十団体参加。

平標山の自然保護パトロール

六月六日、九月二十七日の毎土曜日、平標山自然保護活動パトロールを行った。十三団体(延べ二十団体)三十五名が参加。パトロールは、平標小屋、平標山、仙の倉岳の区間について行った。パトロールの時間帯は、最も入

山者の多い午前十時より午後二時までの時間帯と定め実施した。主な内容は、高山植物保護の呼びかけ、立入り禁止区域内入山者への指導、盗掘防止、環境美化の呼びかけをする。

パトロールについては、全期間中の日程表を作成し各会にお願いする。今回は自然保護委員のいない会にもローテーションに入ってもらい協力をお願いした。

平標山への入山に際しては営林署より林道の通行許可証を取得し、また許可証は別荘管理事務所に保管してもらい入山時にゲートの鍵と共に預かり利用させてもらった。

また、活動日誌を平標小屋の山口氏に保管をお願いし、入下山時に状況報告の記帳を行った。

日山協自然保護委員総会

開催される

十月三十一日、十一月一日、第十二回日山協自然保護委員総会が開かれた。二十八都府県約八十名の参加者があった。開催県である愛知県山岳連盟の案内により、会場を愛知県民の森「モリトピア愛知」と鳳来寺山の二カ所で行った。

一日目、総会及び講演(日本山岳会東海支部環太平洋環境調査登山隊報告)が行われ、夜は懇親会がにぎやかに行われる。総会における大きな問題提起は、東京・広島などから登山者とトイレ、山小屋とトイレなどについての提案が

なされた。夜は大阪岳連の三名と同室でにぎやかな夜だった。

二日目、朝食の後バスにて鳳来寺自然博物館まで行き、博物館の見学と鳳来寺山記念登山を行った。自然保護部一年を振り返って

まだ一年が終わったわけではないが、以上が今年の主な事業である。これから活動を振り返ってみると、群馬での登山道などのゴミ散らかし等は尾瀬を始めとしてほとんど見えなくなってきたと思う。ゴミ持ち帰りなどの意識が登山者のモラルとして身についたものになってきたと思われる。

平標山については、アウトドア意識の高い中高年向けガイドブックに紹介されて以来、信じられない入山者の数であった。ここで問題となるのは、ゴミは持ち帰るのだが、必ず何パーティーかは立入り禁止区域(草原・お花畑)に入って食事をしてしまつことである。一方所でも裸地が出来てしまうと次から次と広がってしまう。より一層の啓蒙が必要と思われる。

トイレについては、今はいかにも知れないがこのまま入山者が増えると山小屋のトイレも処理しきれなくなると思われる。ガイドブック等へも自然保護に関する項目を作り、注意をうながす頁の企画について提案をしていく必要がある。

高体連登山部行事報告

(七月〜十一月)

7/11(土) 夏山計画書検討会

(高 工)

7/19(日)〜22(水)

国体強化合宿

7/24(金)〜26(日)

関東ブロック予選

(栃木県古賀志山)

8/2(日)〜6(木)

第42回全国総体

(高知県三嶺山系)

9/11(金)〜12(土)

秋山指導者講習会

10/23(金)〜25(日)

第29回集中登山大会

(巻機山米子沢)

10/24(土)〜29(木)

第53回国民体育大会

10/31(土)〜11/1(日)

リーダー養成研修会

(榛名山)

11/14(土)〜16(日)

関東高校登山大会

(東京都奥多摩山域)

11/21(土)〜22(日)

リーダー養成研修会

(渋谷セミナーハウス)

十月二十三日から二十五日にかけて、第29回集中登山大会が新潟県「八海山」を会場に行われた。

すでに紅葉の盛りも過ぎ冬枯れの気配の漂う山道を、落ち葉をサクサクと踏みしめて歩くはず……、

高く、山々はまだ青々としていた。

参加三十九校、男子百七名、女子六十二名、顧問六十一名、総勢二百三十名が八海山山麓の大和町大崎の「大崎ダム公園」に集合、開会式後、早速、設営炊事となつ

た。大崎ダム公園のキャンプ場は大変快適なキャンプ場だった。各校とも工夫を凝らしたメニューを楽しんでいた。



秋山指導者講習会 巻機山・米子沢にて

翌二十四日、天気予報では前線が通過し、今年最初の冬型の気圧配置となつて、曇りのち雨ということであつた。昨年の雪の平標山が思い起こされた。しかし、その予報に反し、日が高くなるにつれ青空が広がっていき、絶好の登山日和となつてくれた。

霊泉小屋の清涼な清水で喉を潤し、女人堂の瀟洒な避難小屋では柔らかな日差しを浴び、ようやく色づき始めた木々の袂を歩く、そして、たどりに着いた薬師岳の山頂では、今まさに見頃となつている越後三山や利根川源流地帯の山々の錦秋を楽しむ、まさに満ち足りた一日であつた。夕刻、新潟高体連登山部の藤田委員長が地酒三本を携えて表敬訪問に見えてくれた。改めて感謝申し上げたい。

八海山、信仰の山でもあるからだろうが、その充実した避難小屋には驚かされた。群馬の山もと、つい、思つてしまった。

(委員長 高橋守男)

星野会長、田中副会長

群馬県体協創立70周年記念で表彰

十二月十二日、前橋市マリーキュリーホテルにおいて、群馬県体育協会創立七十年記念式典が開催され、星野 光会長(沼田山岳会)は岳連会長七期十四年、田中成幸副会長(群馬岳登会)は理事長五期十年及び副会長二期四年の功勞に対して、表彰されました。

境町山の会

ダウラギリー峰登頂

断念

境町山の会で創立四十周年行事として計画された、ダウラギリー峰(八一六七m)の登山は、昨年八月二十三日に先発隊三名が出発し、三十日に本隊三名が出発。

九月十三日にB Cに入り、十八日にC 1建設、九月二十三日にC 2入りし、二十五日にC 3へ入り、十月五日にファイナルキャンプC 4に五名が入り、十月六日に五名で頂上へアタックするも、七六〇m地点で悪天候(強風)で登頂を断念し、十月七日全員無事B Cに帰った。

世界八千mと五大陸最高峰の山頂の石の展示会開催

群馬岳連は一九七八年、ダウラギリー峰の登頂に成功してから二十年の歳月が過ぎ、その後、冬期アンナプルナー峰、サガルマータ南西壁初登頂、一昨年のカラコルム八千m三座登頂など、数々の登頂を果たした。登頂の際サミッタ

ーたちが山頂から持ち帰った石の展示会が、十一月十五日から十二月五日まで、伊勢崎市、山とスキーの店石井内「山の相談室、楼蘭」で開催された。会場には、群馬が生んだ世界的ヒマラヤニスト・故山田昇氏が持ち帰った五大陸最高峰の山頂の石も展示され、また、十五日にはサミッターたちも参加して記念祝賀会が催された。

スキー・山岳博物館 資料調査委員会が発足

谷川岳登山口の利根郡水上町に「スキー・山岳博物館」の建設が計画されているが、これに展示する山岳資料を調査する機関として、岳連内に調査委員会を設置することが十一月定例理事会で決定され、十二月定例理事会で委員を推挙し、岳連会長によって委嘱されて、具体的調査に乗り出すことになった。

「スキー・山岳博物館」は水上町商工会が県の提案公募型地域活性化事業の指定を受け、水上温泉の新しい観光スポットにとどまらず、自然環境の保護と山岳遭難事故の防止の啓発を理念とする施設をめざして建設計画を進めているものである。委員は次の通り。

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|------------|------------|-----------|------------|-----------|-----------|-----------|------------|-----------|------------|-----------|------------|-----------|------------|-----------|-----------|-----------|------------|
| 田中 成幸(登高会) | 石井謙一郎(伊勢崎) | 八木原罔明(ミヤマ) | 名塚 秀二(前橋) | 女屋 等志(ミヤマ) | 羽野 順一(境町) | 松永 幸雄(沼田) | 阿部 源(大間々) | 角田二三男(高体連) | 小泉 俊夫(前橋) | 須田 栄一(むすび) | 加藤 恒夫(沼田) | 高橋 守男(高体連) | 原田 惣司(倉渕) | 星野 龍史(ミヤマ) | 須田 淑人(沼田) | 西山 年秋(沼田) | 村上 泰賢(倉渕) | 馬場 保男(ミヤマ) |
|------------|------------|------------|-----------|------------|-----------|-----------|-----------|------------|-----------|------------|-----------|------------|-----------|------------|-----------|-----------|-----------|------------|

以上十九名

墓 石 ・ 灯 籠 専 門 店



高 橋 石 井

高崎市石原町1497 TEL (027) 323-8867
 工場・高崎市八幡町1245-67 TEL (027) 343-0270

群馬むすびの会会員

電話、弱電工事

プ モ リ 電 設

〒379-2223

佐波郡東村東小保方252

☎ 0270-62-2012



(有) 山とスキーの店 石 井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町1819-1

TEL 0270-21-8025

FAX 0270-21-8026

本店 (山の相談室 桜蘭)

伊勢崎市中心町18-8

TEL 0270-25-0272

T. H. I. CORPORATION

TEL:03(5245)0511
FAX:03(5245)0510
(株) ティ・エッチ・アイ

登山隊遠征

- ガモフバッグ、パルスオキシメーターのレンタル、販売
- 隊荷輸送
- 隊荷梱包用資材

個人手配からフルパッケージ・ツアーまで海外旅行に関するすべてをお手伝いします

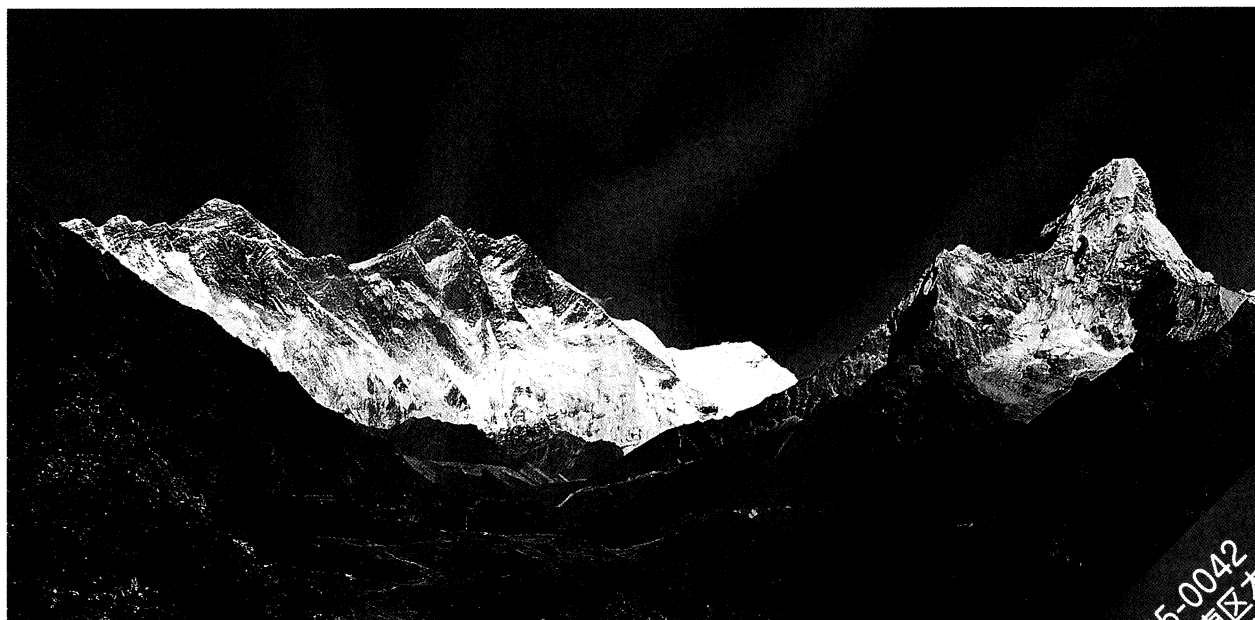
ディスカウント航空券

- 世界各地への航空券
- ホテル、交通機関の手配
- ビザ取得代行

トレッキング

- ネパール、インド、ヨーロッパ・アルプスを始め世界各地でのトレッキング、海外登山

何でもお気軽にご相談ください



T. H. I. CORPORATION

〒135-0042
東京都江東区木場
2-5-7
KHビル7F



萬屋建設グループ

歴史、信用、技術をもって、21世紀の人間と環境を考える。



総合建設業 萬屋建設株式会社

会 長 星 野 光

■本社 群馬県沼田市上原町1756-2 TEL 0278-23-4648(代) FAX 0278-24-3371
 ■支店 東京都豊島区東池袋4-2-7 TEL 03-3985-7631 FAX 03-3982-5964

群馬県公安委員会指定 (公認)

株式会社 沼田自動車教習所

群馬県沼田市横塚町1088-13 TEL 0278-24-4811 FAX 0278-23-7960

昭和シェル石油特約店 有限会社 丸萬石油

群馬県沼田市上原町1756
 TEL 0278-23-0018 ☎ 0120-41-0018

日本工業規格表示許可工場 建設生コン株式会社

本 社 沼田市上久屋2338-1 TEL 0278-24-3111
 大楊工場 利根郡利根村大字大楊187 TEL 0278-56-3682

総合建設業 株式会社 鈴木工業所

群馬県沼田市上久屋1162-5
 TEL 0278-22-2846 FAX 0278-23-6233

マンション 萬栄ビル株式会社

東京都豊島区東池袋4-2-7
 TEL 03-3971-3433 FAX 03-3982-5964